

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K01659

研究課題名（和文）マリアナ・ヤング女史が明治期に導入したPhysical Cultureの解明

研究課題名（英文）Elucidation of Physical Culture introduced by Ms. Mariana Young during the Meiji Period

研究代表者

柿山 哲治（KAKIYAMA, TETSUJI）

福岡大学・スポーツ科学部・教授

研究者番号：10255242

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：マリアナ・ヤング女史は、母校であるオハイオウェスレアン大学在学中にPhysical Cultureに接し、来日前に勤務したアレゲニーカレッジでもラテン語を教えながらHuling Hallの教務助手を務め、Physical Cultureの研究を深めたものと思われた。1898年に来日して長崎活水女学校に着任し、1900年から創設者エリザベス・ラッセル女史の後を受けて同校2代目校長に就任した。着任直後からひ弱な身体 of 生徒達を強くするために、音楽に合わせて号令は全て英語で、西洋式ユニホームを導入し、木製の唾鈴、環、棒を用いた新式体操を行わせ、文部省に先駆けて卒業生を体操指導者に育成していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1902（明治35）年に長崎市にあった舞鶴座で慈善音楽体操會を開催し、それで得た義捐金を孤児院の食堂増築等に充てていたことが明らかになった。先行研究では、開催予告の新聞記事しか発掘されていなかったが、開催後の新聞記事の発掘により、観客数、開催日時、義捐金の使途などを明らかにすることができた。また、慈善音楽体操會以前にも毎年音楽と体操を合わせた公演会を開催していることが明らかとなり、長崎活水女学校の長い歴史にあらたな一ページを蘇らせることができた。文部省に先駆けて女性体操指導者を独自に養成するなど、アメリカ人女性宣教師の日本の女子教育への貢献度の高さを再認識できる研究成果が得られた。

研究成果の概要（英文）：Mariana Young was exposed to Physical Culture while attending her alma mater, Ohio Wesleyan University, and also worked as a teaching assistant at Huling Hall while teaching Latin at Allegheny College, where she worked before coming to Japan, and it is believed that she deepened her study of Physical Culture. In 1898, she came to Japan to work at Nagasaki Kwassui Girl's School, and in 1900, she succeeded its founder, Ms. Elizabeth Russell, as the school's second principal. Immediately after her arrival at the school, in order to strengthen the weak-bodied students, he introduced Western-style uniforms, with all the orders given in English to music, and a new style of gymnastics using wooden dumb bells, rings, and bars, and trained graduates to become gymnastics instructors, ahead of the Ministry of Education.

研究分野：体育史

キーワード：オハイオウェスレアン大学 アレゲニーカレッジ 慈善音楽体操會 長崎市 ミッションスクール 長崎活水女学校 アメリカ人女性宣教師

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

明治期の外国人女性宣教師の役割において、キリスト教伝道として教会を作ること、婦人救済事業、孤児の養育、学校においては英語・器楽の授業、学校全体の管理、寄宿生の世話、洋裁、西洋マナーなどが挙げられるが、体育指導に着目した研究は少ない。しかしながら、ヤング女史が長崎活水女學校に導入した Physical Culture は、生徒の健康状態が改善したばかりでなく教育界でも評判となり、1902 (明治 35) 年には長崎市民に有料公開して体育を啓蒙したことが明らかにされている。〈活水学院百年史 (1980)〉

掛水 (2007) は、ヤング女史の体育奨励に着目し、長崎市民への有料公開に関する記事を地元新聞から発掘し、活水学院百年史に記されなかった「慈善音楽体操会」という公演会名や、体操の演目名および出演者を明らかにしている。〈掛水通子 (2007) 東京女子体育大学紀要〉

申請者は、ヤング女史の新式体操の解明に着手し、活水学院資料室所蔵の学院史、同窓会誌、古写真、校友会誌、学校規則、卒業生の手紙等を分析し、以下の 3 点を明らかにしてきた。

1) ヤング女史が導入した新式体操は、ユニフォームを着用し、号令は全て英語、木環・棍棒・唾鈴を用いて、音楽に合わせて行われていた。〈柿山哲治 (2010) 活水女子大学紀要〉

2) 1902 (明治 35) 年に撮影された屋外体操場で唾鈴体操を指導している日本人女性指導者の古写真を発掘し、その指導者が、卒業生で当時英語と音楽を担当していた“岡島まさ”であること

とを特定し、ヤング女史が日本人女性体育教師誕生以前に体操指導者を養成していた。〈柿山哲治 (2011) 体育史研究〉

3) 1902 (明治 35) 年に撮影された屋外体操場にバスケットゴールを発見し、1908 (明治 41) 年に日本にバスケットボールを東京 YMCA に最初に紹介したとされる大森兵蔵より先にバスケットボールを導入していた。〈柿山哲治 (2014) 日本体育史研究会第 3 回大会〉

しかしながら、ヤング女史自身が Physical Culture をいつ、どこで、だれに、どのように学び、来日直後の日本の女子教育をどのように捉え、全く異質の欧米流体育思想や体育技術をどのように選択し、どのような全人教育を目指して指導したのかについては不明であり、これらを検証することによりヤング女史が Physical Culture を導入した真の理由が明らかになるはずである。

## 2. 研究の目的

上記の背景およびこれまでの研究成果をもとに、本研究では、ヤング女史が明治期の長崎活水女學校に Physical culture を導入した理由を解明するため、4 つの研究課題を設定して検証を行う。

### 1) ヤング女史と Physical Culture との接点

活水学院百年史には、「ヤング女史は米国に在るときに、体育について興味をもって研究していた」という記述がみられるため、ヤング女史の母校であるオハイオウェスレアン大学と在職したアレガニー大学において、いつ、どこで、だれに、どのような内容の Physical culture を学んだかについて明らかにする。加えて、ヤング女史とバスケットボールとの接点についても明確にする。

### 2) ヤング女史着任以前の長崎活水女學校の健康状態と体育教育

活水学院百年史には、Woman's Foreign Missionary Society (以下、WFMS) 報告書を引用して、「ヤング女史は学校生活に新しい要素を加えた。それは体育文化の要素である。生徒たちの健康のよくなったことはこの体育のおかげである」と記されている。一方、ヤング女史着任以前の生徒の健康状態や体育についての記述は見られない。しかしながら、ヤング女史着任以前の 1887 (明治 20) 年の長崎活水女學校規則・第四章生徒行状心得第八項目に、「遊歩時間に勉強ス可カラズ」という文言が見られ、1898 (明治 31) 年、1901 (明治 34) 年に改訂された学校規則にも運歩や運動といった体育に関連した項目が記載されている。したがって、ヤング女史着任以前の長崎活水女學生の健康状態と体育教育について明らかにする。

### 3) ヤング女史が指導した Physical culture の内容

ヤング女史が長崎活水女學校に導入した新式体操については、掛水 (2007) が発掘した「慈善体操音楽会」により体操に関する 11 演目が明らかにされている。また、申請者は日本に最初にバスケットボールが紹介された史実より 6 年前に長崎活水女學校屋外体操場にバスケットゴールが設置されている古写真を発見している。しかしながら、演目名の具体的な内容やどのようにバスケットボールを行っていたのかは明らかにさ

れていない。したがって、新式体操の各演目の具体的内容やそれに用いた音楽のリズム、さらには、どのようなルールに基づいてバスケットボールが行われていたのかについて明らかにする。

#### 4) ヤング女史が導入した Physical culture の教育的成果

活水学院百年史には、ヤング女史の新式体操により、「生徒の健康がよくなった」「全市の教育界の評判になった」といったことが記載されている。しかしながら、受け手側からの教育効果は明らかにされているものの、送り手側の導入意図や成果は一切記述されていない。したがって、ヤング女史の証言や講演記録をもとに、ヤング女史自身は Physical culture の導入をどのような意図で行い、どのような教育的成果を得たと確信していたのかについて明らかにする。

### 3. 研究の方法

#### 1) ヤング女史と Physical culture との接点

活水学院百年史には、ヤング女史が長崎活水女學校に導入したのは“新式体操”と呼称されているが、実際には“Physical Culture”であった。しかしながら、Physical Culture そのものについては、何も問われぬまま現在に至っている。ヤング女史は来日前の米国において、オハイオウェスレアン大学（1889～1893 年在学）を卒業し、卒業後、ペンシルベニア州のアレゲニーカレッジ（1893～1894 年在職）で教鞭を執っていたことが明らかにされている。したがって、両大学に在籍した期間のカタログ（教科名およびその内容が記述されている）、および当時の両大学で行われていた Physical culture について記述されている書籍および報告書の解析を行い、ヤング女史がいつ、どこで、だれに、どのような Physical Culture を学んだかについての調査を行う。

#### 2) ヤング女史着任以前の長崎活水女學生の健康状態と体育教育

活水学院百年史では、「ヤング女史が導入した新式体操のお陰で長崎活水女學校の生徒たちの健康状態が良くなった」ことが、着任以降の WFMS 関連報告書から引用されている。明治期の長崎活水女學校は、少なくとも婦人外国伝道協会本部、ヤング女史を派遣した米国シンシナティ支部、日本の南支部に、毎年報告書を提出しており、それらの WFMS 関連報告書はオハイオウェスレアン大学アーカイブスセンターに所蔵されている。一方、活水学院百年史には、ヤング女史着任以前の長崎活水女學生の健康状態については一切言及されていないため、着任（1896 年）以前から、導入以降に至るまでの WFMS 関連報告書の記述内容を解析する。また、活水学院資料室には 1887（明治 20）年、1898（明治 31）年、1901（明治 34）年に発行された活水女學校規則が所蔵されており、生徒行状心得に遊歩時間や運歩、運動といった体育教育に関する項目がみられる。したがって、その項目の内容についてヤング女史着任以前から着任以降の変遷を調査する。

#### 3) ヤング女史が指導した Physical culture の内容

掛水（2007）が発掘した、1902（明治 35）年 4 月 24 日付の東洋日の出新聞に長崎市民に有料公開した「慈善音楽体操会」の広告記事には、音楽 8 演目と共に体操 11 演目が和名（カタカナ）で示されている。掛水は、体操の名前の和訳が学校によるのか、新聞社によるのかは不明としながらも、当時の一般的和訳と異なるものもあるとし、「大進行（グランド、マーチ）」は行進で、唾鈴体操（ダンベル・dumbbell）は一般には唾鈴体操と訳され、活水学院資料室所蔵の古写真中でも確認している。しかしながら、その他の演目については当時米国で行われていた Physical culture の内容と照らし合わせて分析する必要がある。一方、1902（明治 35）年に長崎活水女學校の屋外体操場で撮影された古写真には、バスケットゴールが写っており、申請者（2014）が形状の特徴からスプリングフィールドカレッジ所蔵のルールブックで調査した所、AAU Official Basketball Rules（1896-1897）に記載されているゴールの型式に基づいたものであることが判明した。したがって、ヤング女史が導入した Physical culture は、新式体操と呼称されながらも、その内容は球技にまで及んでいる可能性が示唆され、バスケットボール導入に関する記述を WFMS 関連報告書から抽出するとともに、女子バスケットボール誕生の地であるスミス大学アーカイブスセンターで、当時の女子バスケットボールのルールや女子の体育教材としての位置づけについての調査を行う。また、バスケットボール誕生の地であるスプリングフィールドカレッジにもバスケットボールのルールブックを始めとしたバスケットボール創成に関する資料が豊富に所蔵されているので、当大学アーカイブスセンターにおいても女子バスケットボールについての解析を行う。

#### 4) ヤング女史が導入した Physical culture の教育的成果

活水学院百年史の記述内容から、ヤング女史の新式体操導入により、「生徒の健康がよくなった」「全市の教育界の評判になった」といった第三者からみた効果が記載されている。しかしながら、Physical culture を長崎活水女學校に導入したヤング女史自身の意図や成果を読み取ることができない。当時の長崎活水女學校は WFMS 本部、米国シンシナティ支部、日本南支部宛てに毎年校内の様子を報告しており、それらの報告書がオハイオウェスレアン大学アーカイブスセンターに所蔵されている。そこにはヤング女史自身あるいはその当時長崎活水女學校で教育活動を行っていた宣教師による生の

声が記録されている可能性が高い。したがって、WFMS 関連報告書から長崎活水女学校に関する文章を抽出し、ヤング女史自身にとっての Physical culture 導入の教育的成果を見出す。

#### 4. 研究成果

##### 1) ヤング女史と Physical Culture との接点

ヤング女史は1889年にオハイオウェスレアン大学に入学し、1893年に卒業している。その間の彼女の大学での所属をオハイオウェスレアン大学カタログで調べると、CLASSICAL 在籍し、1年次(1889-90)は7N. Washington、2年次(1890-91)は17E William、3年次(1891-92)はMonnett Hall、4年次(1892-93)もMonnett Hallで寮生活を送っていたことが明らかとなった。MARY ELIZABETH HAGEMeyer (1949)のA HISTORY OF PHYSICAL EDUCATION FOR WOMEN AT OHIO WESLEYAN UNIVERSITYには、“The first classes in Physical Culture for young ladies were formed in the year 1891-92”の記述がみられ、ヤング女史3年次に女子のPhysical cultureが授業で導入されたことから、オハイオウェスレアン大学でPhysical cultureに接した可能性が示唆された。一方、“Basketball entered the curriculum in 1897, and all the girls were required to play the game as part of their regular physical training classes.”の記述から、ヤング女史は1893年に同校を卒業しており、ここでバスケットボールを学んだ可能性はないものと思われた。しかし、彼女は、1894年から1897年までアレゲニー大学でラテン語を教えながらHuling's Hallの教務助手を兼任していた。THE ALLEGHENY COLLEGE BULLETIN, BASKETBALL NUMBER, FEBRUARY, 1946のThe Story of the Beginning of Basketball at Alleghenyには、オイルシティY.M.C.A.の体育館でバスケットボールをプレーし、そこからブルームズバーグ教員養成大学に進み、当時ペンシルベニア州で最大かつ最新の体育館で2年間、副体育部長を務め、1895年に初代体育部長としてアレゲニーカレッジにハワードバッジ氏が、1895年に就任し、OLD ALLEGHENY, A Handbook of Information (1921)には、「Huling's Hallにある体育館では、女性たちが体を鍛えています。リズムカルな表現は、有能なインストラクターによって指導されています。バスケットボールやその他の室内スポーツは、彼女たちのニーズに合わせたプログラムで行われる。」と記述がみられることから、ヤング女史はアレゲニーカレッジでバスケットボールに接した可能性が考えられた。

##### 2) ヤング女史着任以前の長崎活水女学生の健康状態と体育教育

ヤング女史着任以前の長崎活水女学校規則明治20年度(1887-1888)において、第八項「遊歩時間八勉強ス可ラス」第三項「指定ノ時間ニ於テ運歩ヲ怠ルモノハ亦罰點ヲ得ヘシ」と記載されている。したがって、ヤング女史着任以前にも長崎活水女学校では、遊歩時間や運歩を導入していたものと思われる。また、ヤング女史着任以降の活水女学校規則 明治34(1901)年7月改正には、「生徒ハ必ず体操運動ヲ怠ルベカラズ 若シ健康上体操運動ヲナスコト能ハサル時ハ校医ノ署名ヲ得テ其欠席セントスル部分ヲ届出ツベシ」との記載が見られ、遊歩や運歩から体操運動に名称が変わっている。TWENTY-NINTH ANNUAL REPORT OF THE WOMAN'S Foreign Missionary Society OF THE METHODIST EPISCOPAL CHURCH FOR THE YEAR 1897-98には、「ヤング女史は1897年10月に教師陣に加わりました。ヤング女史は、学校生活に新しい要素を加えました。それはPhysical cultureです。女子生徒の健康状態が良くなったのは、この身体文化のお陰です。」との記述がみられ、遊歩や運歩では見られなかった健康状態の改善が体操運動で良くなった様子が窺える。ヤング女史の導入したPhysical cultureは新式体操と呼ばれ、音楽に合わせて号令は全て英語、西洋式ユニフォームを身に纏い、木製の唾鈴・環・棒を用いて行われていた。

##### 3) ヤング女史が指導した Physical culture の内容

ヤング女史が指導したPhysical cultureの体操については前述した。しかし、申請者は屋外体操場で新式体操を演じる女子生徒の背後に、バスケットボールのゴールが立っているのを発見し、このゴールの形状がスプリングフィールドカレッジ所蔵のAAUルールブックに準じたスクリーンであることを突き止めた。スクリーンはルールブックにおいて1895-96年に初めて表記される。一枚板のバックボード表記が始まるのは1904-5年である。長崎活水女学校のバスケットゴールが撮影されたのは1902年であるため、ゴールのルール変遷ともマッチする。また、1899年から1901年の南日本カンファレンス報告書には、毎年バスケットボールについての記述がみられ、アメリカの女性たちに人気のあるバスケットボールを要求するところから実際に手にした様子まで記述されていた。しかしながら、明治期の長崎活水女学校でバスケットボールを行っている写真や生徒の証言は発掘できていない。

##### 4) ヤング女史が導入した Physical culture の教育的成果

1902年に長崎市舞鶴座で開催された慈善音楽体操會の開催案内記事を、掛水(2007)

は地元新聞紙から発掘していたが、開催後の新聞記事は発掘できていなかった。本研究では、明治期の地元新聞がマイクロフィルムからデジタル化されたことも手伝って、公演会開催後の記事を発掘し、掛水(2007)が課題として残した開催日数、観客数に加え、義捐金の使途も明らかにすることができた。東洋日の出新聞 明治三十五年四月二十四日(第九十一號)には、慈善音楽女子体操會と題して、「長崎市内に居住する内外レデーの發起に係る慈善音楽女子体操演技會は其所得を以て大浦活水女學校長ラツスル女史の主管する筑前糟屋郡席内村字古賀に設けある孤女院の食堂浴場建築の費に充てんと趣意にて二十六日(土曜日)の夜舞鶴座に催さるゝものなるが女子体操は極めて新式の運動にて洋装せる女性が四人一組宛になり音楽の調子に合はせ種々なる演藝を為す餘程見事にして且つ有益のものなれば追々は我小學校杯にも採用さるゝに至るべく小學生杯は一見の価値あるべく又其他種々の合奏等もありと」掲載されていた。また、東洋日の出新聞 明治三十五年四月二十九日(第九十五號)には、慈善音楽女子体操會と題して、「慈善音楽女子体操演技會 は二十六日の夜舞鶴座に於て催されしが洋装せる活水女學校生徒の種々なる演藝、ピアノとマンドリン、ヴァイオリンピアノの合奏と唱歌等約二十番の演技ありて散會せしは〇一時半頃なりし女子の体操は練修の期日短きに比し中々巧みなりき約二千五百の入場者ありて頗る盛會なりし」と掲載されていたが、散會時刻の一部が消えていて明らかにできなかった。新聞記事以外にも他県での公開要望があったとの記述があり、小学校や長崎県外の教育にも効果を及ぼした可能性が示唆された。

明治期の長崎活水女學校に導入された Physical culture は、ヤング女史がアメリカの大学で経験した Physical culture に基づいて実施された可能性が考えられ、生徒自身の健康状態を良くするだけでなく、長崎の女性や小学校、ひいては県外の学校まで教育効果を及ぼした可能性が示唆された。

コロナ禍で研究期間を2年間延長して臨んだが、ヤング女史が Physical culture に接したオハイオウェスレアン大学、バスケットボールに接したアレゲニーカレッジ、女子バスケットボールに関する史料が所蔵されているスプリングフィールドカレッジおよびスミスカレッジを訪問することはできなかった。したがって、Physical culture の具体的内容を明らかにすることはできなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 柿山哲治
2. 発表標題 明治期の長崎活水女學校における「慈善音楽体操會」の系譜
3. 学会等名 日本体育学会第70回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柿山哲治
2. 発表標題 米国式バスケットボールのわが国への導入についての再考
3. 学会等名 日本体育学会第69回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柿山哲治
2. 発表標題 「長崎に眠る西洋人 - 長崎国際墓地墓碑巡り」に紹介された「活水の音楽会の記事」の真相
3. 学会等名 第6回日本体育史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 柿山哲治
2. 発表標題 明治三十五年四月二十四日付鎮西日報が報じた「慈善音楽体操會」に関する英文史料の発掘
3. 学会等名 日本体育学会第68回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 掛水通子監修 山田理恵・及川佑介・藤坂由美子編著 掛水通子、新井喜代加、金子一秀、笹生心太、佐藤晋也、早瀬健介、武藤伸司、渡辺博之、阿江美恵子、奥野知加、柿山哲治、木村華織、鈴木楓太、曾我芳枝、田原淳子、來田享子、阿部生雄、及川佑介、大熊廣明、木下秀明、成田十次郎、藤坂由美子、山田理恵、山本徳郎（執筆順）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 叢文社	5. 総ページ数 443
3. 書名 身体文化論を繋ぐ - 女子・体育・歴史研究へのかけ橋として -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------